

北海道大学病院・消化器外科Ⅱに通院中
(または過去に通院・入院されたことのある) の
患者さんまたはご家族の方へ (臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、患者さんの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号、令和5年3月27日一部改正)」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

[研究課題名]

多施設共同による偶発胆嚢癌患者における臨床病理学的因子と生命予後との関連についての検討

[研究代表機関名・所属] 真名瀬 博人 (旭川赤十字病院・病院長)

[研究代表者名・所属] 栗原 尚太 (旭川赤十字病院 外科副部長)

[共同研究機関・研究責任者]

北海道大学病院 消化器外科Ⅱ 教授 平野聰
NTT 東日本札幌病院 外科部長 山田秀久
国家公務員共済組合連合会 斗南病院 院長 奥芝俊一
手稲渓仁会病院 副院長 安保善恭
北海道消化器科病院 理事長 森田高行
恵佑会札幌病院 外科主任部長 北上英彦
イムス札幌消化器中央総合病院 外科部長 早馬聰
帯広厚生病院 副院長 村川力彦
王子総合病院 院長 岩井和浩
製鉄記念室蘭病院 副院長 仙丸直人
北見赤十字病院 第二外科部長 京極典憲
市立釧路総合病院 副院長 飯村泰昭
国立病院機構函館医療センター 第一外科部長 鈴置真人
札幌清田病院 副院長 矢野智之
愛育病院 外科部長 青木貴徳

[研究の目的]

胆嚢がんは解剖学的特徴から術前に組織生検を行い確定診断を得ることが困難な疾患とされています。胆嚢結石症や胆嚢腺筋症、胆嚢炎などの良性疾患と診断され胆嚢摘出術を行い、術中あるいは術後に胆嚢がんと初めて診断されるものを偶発胆嚢が

んと呼び、発生頻度は約 1%前後とされています。偶発胆嚢がんはがん細胞が体内に遺残している可能性があり、追加切除、リンパ節郭清を行うことが推奨されています。非常にまれな疾患であるため、適切な抗がん剤治療や、適切な追加切除術式など治療法が確立されていないことが現状です。本研究結果をもとに偶発胆嚢癌患者さんがどうすれば長生きできるかどうかについて解析いたします。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

2005 年 1 月 1 日から 2024 年 1 月 31 日の期間に偶発胆嚢がんと診断された方を研究対象としています。

○利用するカルテ情報

カルテ情報：診断名、年齢、性別、身長、体重、検査結果（血液検査、CT 画像検査）、手術関連情報（術式、手術時間、出血量）、病理学的診断（ステージ）、術後情報（再発日、再発箇所、死亡日、死亡原因）

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、ご住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

*上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

[連絡先・相談窓口]

北海道札幌市北区北 15 条西 7 丁目

北海道大学病院 消化器外科Ⅱ 担当医師 松井 あや

電話 011-706-7714 FAX 011-706-7158